

朝鮮人の熱望

シヤウツド・エデー

本稿は「The Challenge of the East」と題するシヤウツド・エデー博士の著書中に見る「Korea's Aspirations」なる一項の大意を譯したるものである。博士は一八七一年米國カンサス州に生れ、一八九六年印度に渡り、一九一二年本國に歸つて基督教青年會のアジア部長となり、朝鮮・支那・印度・極東ロシアに於ける青年の指導に衝り、歐洲大戰當時には、英國軍と共に陣中に活躍されたこともある。

博士は我が國に對する理解と同情にあつく、曩にアメリカに於て我が移民問題の整頭せる時、博士の令妹が禮々日本を訪れ、朝野の間に奔走されたことは、吾人の記憶に新なる處である。博士には「印度の覺醒」、「アジアの新時代」、「勞働の新世界」其他數多の著書があるが、今回紹介せんとするは、一九三〇年に朝鮮を視察せる結果に基いて執筆されたもので、其の所論は廣汎に亘り且つ詳細なるものであるが、認識の正確を缺く所もないではない。併し外人の忌憚なき感想を有りのまゝに紹介することは又以て他山の石と爲すべく、統治上の參考に資すべき點が尠くない。(小田安馬)

朝鮮人の熱望

私が朝鮮を去る前のことであるが、私は顯著なる特種の一面を見ることが出来た。それはちやうど

天長節の佳日で、總督齋藤子爵が祝賀の園遊會を開催せられた時の事である。之に充てられた會場は、朝鮮三千年の歴史を回顧するに相應しい韓國皇帝の宮園であつた。此所には古代支那風の建築があつて、昔時皇帝は此所に住居してゐられたのである。宮園の直前には、日本の統治に依り開拓されつゝある朝鮮の資源を最も善く表象する所の、曾て發見されなかつた朝鮮の石山や鑛山より掘り出された美麗極まる大理石や、花崗岩及び金屬によつて建築された、最新式の朝鮮總督府廳舎が屹立してゐる。古き宮殿を見て思ふのは、曾て日本に於ける儒教及び佛教文明の指導者として、過去の文化を誇つた朝鮮の歴史的變遷である。僅か一世紀前の人民が惡政の下におかれて、屈辱的支配に甘んじた事實が追想される。そして吾人の心裡には二つの感が湧いて来る。即ち現時最も進歩せる總督政治は、果して漸次貧窮に陥り土地の所有權すら喪失しつゝある朝鮮人の膏血と犠牲とを以て、日本が帝國主義の實現を企圖せんとする爲であるか、將又刻々に自由を得且つ富みつゝ忠實な國民たらんとする朝鮮人の爲にするのであるかが、それである。之を換言すれば、朝鮮が日本に對して、其の横腹に突き付けた短刀の如く、時期到來せば何時にても一撃せんとするアイルランドたるべきか、或は又た朝鮮が日本帝國の一部として、日本に對し善良且つ満足なる感激を有する同胞たるべきかである。

此の問題は、唯々日本の將來の方針にのみ依つて決定さるべきものであつて、日本の行爲如何に依

つて、朝鮮は忠實の國ともなり、又仇敵ともなる譯である。要は日本が賢名なるリベラル政治を此所に施くか、或は盲目的な軍閥家（軍閥家）が此所に反抗を起さしめるに至るかの、一に歸着するかのやうに思はれる。

此の園遊會は、古代朝鮮と近代日本との會合であつた。私共は隣國支那によつて興へられた三千年前の朝鮮の輝ける過去を顧みることが出來たのみならず、歴史が腐敗せる政治に依つて終末を告げた事實をも觀たのである。暫く過去を検討して見よう。即ち當時は放蕩なる親戚の負債の爲に訴訟されることがあり、惡官吏の掠奪の爲に、全く事業の停頓することもあつた。而して官吏の地位は最高金額提供者に賣却せられ、役人や地主は掠奪を事とする階級に變化し、常民は役人から捲き上げられることを恐れて、寧ろ貧困に甘んじ、穢い伏屋に住むのを安全とした。勤儉力行の美風は廢れ、生命財産の保護は興へられなかつた。斯る場合朝鮮の改善と近代化に最も眞面目なりし日本が、此の國を併合することは當然の運命であつた。

私共は又一面に於て現代日本の歴然たるものをも見ることが出來た。總督は來賓一同の前で天皇陛下の萬歲を唱へ、軍服嚴めしき武官と盛裝せる文官は、之に和して萬歲を三唱した。日本がペルリ提督によりて門戶開放を迫られ、長夜の眠より覺めてこゝに五十餘年、今や文化燦然たる日本が、退嬰

的な朝鮮の門戸を叩き、覺醒を促したのである。

日本は海外に知識を求め、之を日本化して、凡ゆる物質的生活を近代化し、亞細亞に於ける無比の強國と成り、又西洋の諸國とも競争し得る大強國となつた。齋藤總督は曩に「ゼネバ」の海軍少會議に列席した日本の首席全權で、世界二大海軍國に向つて、五十五三の率以上を要求した人である。

最近京城に於て朝鮮併合二十周年祝賀記念會が催された。此の際過去二十年間の施政に於て成遂げられた物質的發達の跡を、博覽會により示されたのであるが、其の發達の一面は建物によつても目の當り見ることが出来た。古い朝鮮の都の晩は、暗黒にして街燈だになく、日暮れて後は何人も外出を許されなかつた。周圍を繞らす禿山は、自然の興ふる資源を涸竭せしめ、國內は海外侵略者の擅恣に委せられてゐたが、今や山は綠樹を以て蔽われ、非常な變化を示してゐる。三十餘萬の人口を有する近代都市の廣い道路には、自動車が輻輳し、宏壯なる建築物が櫛比して、商工業は頗る盛大を極めてゐる。

近代朝鮮の世相も亦園遊會の中に表現されてゐた。或朝鮮人は悲哀に滿ち、日本の物質的發達をたゞ黙視してゐるかに見えた。彼等は進歩しつゝある物質文明の惠澤に浴してゐないからである。其の不満を公然と言語文章に表明することが出来ないからである。今朝鮮人の日本統治に對する不満とす

るものは、之を三大別することが出来る。

その一は、日本が同化又は吸收政策を以て朝鮮に臨み、朝鮮人の意志に反して日本化せんとし、彼等の尊重する歴史・文化及び習慣を無視し、破壊せんとしつゝあると云ふのである。又その二は、總督政治は專制的獨裁政治である。従つてともすれば同情と理解とを缺き易い。總督政治は總督の意志により陛下の御裁可を仰ぎ、凡ての法律を定め、高等官吏を任命するので、二千萬の人民は、これに何等參與する權を有たないと云ふのである。其の三は、總督政治の現に執りつゝある經濟的政策は、其の目的は如何であらうとも、結果から見れば朝鮮人の損失に於て、日本の經濟的擴張を圖るので、之が爲に朝鮮人は其の所有權を失ひ、小作人と化しつゝあるといふのである。

誤解は只單に朝鮮・印度・比島等に限らず、如何なる被統治國に於ても、征服者・被征服者間に於て、自然的起る所のものである。斯るが故に最も偏らず同情的に日本統治の性質及び朝鮮人の立場を、十分の注意を拂つて、研究して見たいのであるが、間違のある所は、重々御詫をして置き度いと思ふ。如何なる國に於ても、感情の激昂した場合には、其の聲明に對して多くの人々の反感激怒を買ふことが屢々ある。米國人として其の友人である朝鮮人に對して、自然的又當然に起るべき彼等の有する國家慾に同情し、又日本人に對して、一層感激の情を有し、更に一九二四年日本人排斥案の發令せられ

しことに對しては、深甚の恥辱を感じつゝ、此の筆をとるものである。

日本の施政

朝鮮は八萬五千二百二十八平方哩の面積を有し、日本々土・ミネソタ州・英國本土に對して三分の二の大きさを有し、人口は約二千萬である。其の八割三分三厘は農業及び林業にて生活し、僅か其の二分二厘が工業又は商業に依りて生活してゐる。日本統治二十年間（一九一〇年—一九三〇年）に、日本は朝鮮開發のため八億弗（軍費を含まず）を投じた。國債は日本保護時代の百萬弗より、現時一億四千九百萬弗に増加し、凡て植林・鐵道の延長・築港・水利・農民及び部落救濟補助、其の他に用ひられてゐる。朝鮮の商業は二十年間に於て、二千九百八十四萬八千弗より、四億弗に増加して居る。即ち十三倍以上の増加である。始めの十年間に於ける商業の發達は、如何なる東洋の諸國に於ても、見る事の出来ない増加率である。輸入は十倍し、輸出は二十年間に二十倍以上の増加率を示してゐる。政府の豫算は二千四百三十七萬五百弗より、九千七百萬弗以上に増加し、全半島の生産額は二億弗より十億弗、即ち五倍の増加を來してゐる。農産物の産額は三倍半に増加し、林業・鑛山・水産は三倍より九倍に増加してゐる。製品は七百五十萬弗より一億七千二百萬弗、即ち二十三倍に増加した。

三十年前の朝鮮は、彼等の政府の腐敗せる政治の下に置かれ、僅かに道路があつた位で、鐵道一線なく近代的の産業は全然なかつた。今日朝鮮内には二千哩の鐵道が布設され、まだ工事中のものが澤山ある。鐵道と共に立派な道路や立派なホテルが設立されてある。中でも一番顯著に成功したものは林業である。朝鮮の昔の森林は薪として伐取られ、禿山は洪水や旱魃に齟齬されてゐたのである。統計に依ると、三百萬エーカーの土地に、三十億本の樹木を植へ附けたと云ふことであつて、風致は漸時變化して來た、將來雨量も増すことと思はれる。日本の水産は最も科學的で、世界でも一番成功した國であらう。其の捕獲の價格は十二倍にも増加してゐる。家庭産業として農民に蠶業を奨励して來た。過去二十年間に優秀の蠶種を輸入し、之に従事するもの十倍の増加を來たし、鮮人農家の六分の一は之に従事してゐる。繭の年産額は二十三倍以上に増加してゐる。

朝鮮全人口の二分二厘、即ち四十二萬四千七百四十人が日本人である。而して、僅かに全農家の二厘五毛が農事に従事し二割五分は公務に従事してゐる。外國貿易は十二倍に増加し、日本人々口の増加に匹敵して、一部の商人は都會に居住する朝鮮人である。銀行預金は過去二十年間に五倍に増加し、朝鮮殖産銀行預金者の五割一分七厘は朝鮮人である。尤も其の金額は全體の二割であるが、一人當りの預金平均額は日本人の九十弗三七仙に對し、朝鮮人は二十一弗二六仙である。あらゆる情報により

調査してみると、朝鮮の富は漸次増加しつつある、特に都會に於て然りであるが、日本人は朝鮮人よりも富つゝある。都會より田園に目を轉ずれば、過去十五箇年間の日本統治の下に於て、耕作面積は三割五分を増加し、農産額は五割三分の増加である。最も公平な研究家の証言に依れば、日本の最善の努力は朝鮮人農民を援助しつつあることであつて、尙ほ將來も援助するであらう。アメリカの陸地棉は輸入され、農業及び畜産に非常なる影響を與へ、水田の大面积は産米増殖の爲に水利の便が計られ、米の輸出額は過去二十年間に於て六倍に増加してゐる。然るに「ドクトル・ブルナー」の報告に依れば、負債の増加及び小作人の増加と、否むべからざる人心の動搖とは、健全なる當時の状態にあらずと。一般の朝鮮人は二十年前に比して多くの金を有し、購買力も増してゐるが、併し十年毎に自作農は一割一分の割合で減じつつあつて、小作人は二割の割合を以て増加しデンマークとは丁度反對の現象を呈してゐる。

統計に依れば、人口は漸次増加しつつあるが、個人所有の面積は減少の態である。平均一人當りの小作農は三エーカーを所有し、其の半分が水田である。併し之は日本に於ける二エーカー半に比して未だ大きい。法律に依る小作料は折半である。南部に於ける小作人の正味の収入は僅か作物の五分の一にしか當らない。平均一家當り収入は一年百弗より百七十弗の間である。其の内より八分乃至一割

を税金として拂はなければならない。南部に於ける調査に依れば、自作農者の利益を得たるものは僅か全體の三割であつて、半小作の九割五分九厘及び小作農の九割六分九厘は年中負債を以つて日を送ると云ふのである。北部に於ては五戸の内二戸は借財を有し南部に於ては五戸の内四戸まで借財を有つてゐる。彼等は平均年利三割六分をもつてゐる。各地方に於て自作農は其の土地を擔保に置いて、多くは失望落膽の裏にあり、或者は擔保を流失する者もある。南部に於ては耕作面積の二割の所に人口増加し、一平方哩に九百人に達した爲に生活難を生じ、日本内地・滿洲及びシベリヤ地方に多數移住するに至つた。從來政府の惡政に依り、農民は税關吏に苦しめられ、又寄食近親者に苦しめられてなすことなく、事業の發達せざる朝鮮を去つてしまつた。

農村に於ける内地人は、朝鮮人よりも多くの收穫を得てゐる。支那人も勞力競争に於て彼等を壓倒してゐる。封建時代及び産業時代の内にある變遷極なき時に於て、朝鮮の農民は日本内地に於けると等しく、苦境に立至つてゐる。朝鮮人は此の新時代に調和する能はず、生存競争に敗北しつつある。或者は飲酒に依り此の苦境を忘れんとし、或青年は夢想に耽り失望の結果、最後の望として共產黨に走つてゐる。共產主義は北はシベリヤから、南は日本に留學せるもの及び労働者に依つて侵入してゐる。共產主義は極東(日本・朝鮮・支那)の三國に向つて盛なる宣傳をなし、農民労働者を捕へんとして

あるが、最も其の苦境にある者は支那人であつて、これに向つて勢力を集注してゐる。

現時の状況に鑑み、朝鮮人は日本人と同様に、富の程度に於て等しからずとも、日本の朝鮮に於ける施政は物質的に最も成功したと見る事が出来る。尤も靈的方面に於ては、日本の統治は上等とは云はれぬ。之は有力なる日本人の告白である。酒・遊廓等は政府に依つて公認せられ、其の數は共に増加して來た。政府の酒税より得る金額は莫大なものである。一千八百七十六年の條約によつて、日本は賢明なる策を採り、朝鮮に阿片の輸入を禁止する條項を設けたのであるが之は日本の門戶開放當時、タウンセント・ハリス氏の先見の明により、日本自身が幸を得たる賜物であつて、之を朝鮮に贈つたのである。

朝鮮人の訴

以上日本統治下に於ける、朝鮮の物質的進歩は否むべからずして喜ぶべきことであるが、今朝鮮人の云ふ所を聞いて見よう。それは寧ろ教育を受けたる朝鮮人で、獨立を希望するもの、九十九パーセント迄の一致した意見を綜合して書くこととする。朝鮮人の一部では、政府の恩澤に依り物質的利益を享け、或は日本の統治を歓迎するものもあらう。又多くは貧困にして生存競争に抑へられ、政治問

題には無干渉なるものもあるかも知れぬが、既に述べたる如く、朝鮮人は日本統治に對して、三つの訴へをもつてゐる

(一) 第一の問題は、朝鮮人同化又は吸收政策である。

日本は一八六八年(明治元年)に自國民を軍事教育法により近代化したる經驗を有するを以て、極く簡単に朝鮮人を同化し得ると考へた。或る人は「自分は結局一つの事を考へて居る、それは數代か、るかも知れないが、朝鮮人に國語を教へて日本に同化することである。朝鮮人は日本語を語り、又日本人の生活をなし、我等の國家構成の一要素とならねばならぬ。植民地の統治に二方法がある。一つは其の住民を外國人として治めることで、之は英國が印度に於て採つて居る政策であるが、英國の印度帝國統治は永續することが出来ない。印度は何れ英國の統治より脱するであらう。他は同化主義で、我等の採らんとするものである。我等は朝鮮人に國語を教へ、我等の制度に依りて朝鮮人を統べ、我等と同一の國民とするのである」といつてゐる。半政府の機關紙であるセウルプレス紙は、統治方針について、「我等は朝鮮人同化方針に就て、少しも躊躇することは無い」と述べてゐる。日本語を國語とし、之に依つて學科が教へられてゐる。

然しながら、朝鮮人としては、之を彼等の人格の蹂躪なりとし、朝鮮人としての修養缺くべからざ

る所の朝鮮の歴史・文化・慣習等、最も重んずべきものを除外されて了ふであらうと憤慨して居る。朝鮮人が日本化され度くないのは、丁度日本人が朝鮮化され度くないのと同じである。或る人は斯く云ふ、即ち「今朝鮮歴史が編纂されつゝある、其の編纂委員は内鮮人に依つて組織されて居るのであつて、完成の時は之れを學校で教へること。

併し朝鮮人は千五百九十二年、秀吉の朝鮮侵略に因る生命財産の破壊が、莫大であつたことを忘れてゐない。總督の園遊會の際、或る朝鮮人は景福宮の灰塵に歸した理由は、日本の猛烈なる攻撃に因つてでなく、朝鮮人の群衆に依つて破壊されたのだと書いてあつた掲示板を私に示して呉れた、目下日本統治に反對するものは、新しき教育を受けつゝある學生である。

(二) 第二の問題は、朝鮮人の訴へる所の總督の専制統治である。

日本人は法律を制定し、官吏を任命し、自ら重要な位置を占めてゐる。統治初代の總督は特に嚴格で、軍閥的であつたと云はれてゐる。日本人は日本に於ける經驗を、何もかも一度に朝鮮に應用せんとして居るかの如くである。ブルナー博士は書いて居る。併合以來十年の間に、施政方針の大項目を六十回も變更して、僅か一年しか實行されずに改正されてしまつたのもあつた。現下の情況に於て、警察官は廣範圍の權力を有し、公開演說會開催の許可を與へ、其の會場に出席し、總督の施政方針に

調和せざる言動と考ふれば、其の演說を速時停止せしめ、必要と認めた場合には其の演說者を檢束し、取調をなすのである。齋藤子爵始め高官の多くは同情的で理解的であるが、下級官吏の多くは同情に乏しく嚴格に過ぎ、朝鮮人に惡感情を起さしてゐる。而して之等の下級官吏が、一番多く一般朝鮮人と接觸するのである。朝鮮人は總督政治を批評する自由を有しない。總督政治の批評は、やゝもすれば治安妨害として問はれ勝ちである。朝鮮人の所有する三新聞は交々差押へられ、其の編輯者の數人は刑に處せられたこと。

現在でも朝鮮人の新聞なる東亞日報は發刊禁止を命ぜられたのであるが、昭和五年四月十八日のセウルプレス紙に依れば、警務局長は新聞記者を招致して警告を發したが、其の内容は東亞日報がジョージ・バーナート・シヨウの論文及びチエコスロバキヤの成功と題する尹致昊博士の論文を掲載したと云ふにある。更にセウルプレス紙は續けて書いて居る。四月十六日の東亞日報には、ネーション紙の主筆ヴェラード氏の黒奴の自由獲得成功と題する論文を掲載せしは、明かに朝鮮民族煽動の目的を以て爲されたものであるが故に、當局は其の責任者を召喚し、其の行爲に對する嚴重なる警告を與へたものであるが、更に反省する所なく、繰り返したのであつて、之れは政府に對し正面より反抗したるものと見らるゝので、止むなく發行停止を命ずるに至つたものである。と記してあつた。去年一月よ

り三月迄の間に於て、此の新聞は三十九回の禁止を喰つたのである。今少し詳しく云へば、發賣禁止十五回、記事の掲載禁止二十四回であり、問題なく通つた日は殆ど一日もなかつたことになる。

日本人は偉大な國民である、彼等の最近の進歩發達は、全く稀有のもので世界歴史中類例がない。彼等の特性の礎石は忠義と云ふ二字である。人種としての特長は社會的結合で、之が彼等を成功せしむるに至つた原因である。彼等の有する崇高なる理想、豊富なる犠牲の精神、團體的組織力は偉大なるものである。然し獨逸人に比すれば未だ他人を諒解する點に於ては缺けてゐる。日本人は非常に遠慮深く、他の批評に神經過敏であり、自己批判に乏しい。

朝鮮人は日本人よりも情的に富んでゐる、故に平和的の和協的態度、正義を以て漸次自治を興へて行く政策をとれば、容易に彼等鮮人を抱き込む事が出来る。然るに朝鮮人は強壓的同化、又は專制的統御方法を決して受入れるものでない。日本人はダン／＼此の點に感じつゝあるのである。朝鮮人は印度や比島に於けるが如き自由の程度に於ては餘程遅れてゐるが、齋藤總督の同情且つ理解ある政治の下に、自治の第一歩を得たのである。朝鮮十三道の知事の中、五人は朝鮮人である。殆ど全部の面長は朝鮮人で、十分の九の郡守も然りである。齋藤總督は諮問機關を擴張して、漸次日本人の多く居住する都市及び指定面や經濟力を有する協議會等に、自治制を興へることにした。

(三) 經濟的差別政策は、朝鮮人の第三の訴である。

原因はさて置き、朝鮮人が土地所有權を失ひつゝあることは、アメリカ其の他の國に於ける農民の狀態と變りないのは事實である。朝鮮人農民の四分の三は地主との關係を持つてゐる。地主の中五分の一のものは極めて大地主で彼等は凡て其の所有地全部を小作せしめ、而して彼等の全部所有土地を合すると朝鮮の耕作面積の二分の一以上に達するのである。日本人は半島の土地の一割二分乃至二割を所有してゐるが、併合以來僅か一萬戸足らずの人が移住して來たのみである。南部に於ては朝鮮人所有地の四分の一が、朝鮮人の手を離れた。朝鮮人は政府が長期及び低利資金を以て、日本人を誘引し、爲に或少數の朝鮮人は、小作人或は流矢擔保持者の如何を問はず、日本人移住者の爲に、其の場をあげねばならぬ事を不平に思つて居る。(註。政府が長期及び低利の資金を以て、内地移民を朝鮮に誘引し、爲に朝鮮人が田園を追はれたことはない。政府の低利資金で、移民の爲に用ゐられたのは沃溝の干拓地にある不二農村組合のみである。同所は全然新たなる埋立に依つて得た地で、從來朝鮮人の所有してゐた土地ではない。)島田三郎氏や其の他の日本人は、朝鮮人小作が、或者は一世紀も耕作して、殆ど所有に等しい國家所有地(驛屯土)を日本人移民の便宜の爲に割讓されるに對して、反對意見を提出した。(註。驛屯土を政府から移民の便宜の爲に割讓されたことはない。東洋拓殖株式會社に對する

韓國政府の出資が、驛屯土を以てされたことがあるのである。又政府は大正七年から十年賦で、其の所有する驛屯土を其の耕作者たりし朝鮮人に賣渡した。日本人は法律の援助に依り自然的に新商業及び工業の権利を取得したのである。有限會社に於ては、其の理事中に必ず日本人を加へなければならぬ(註。有限會社の理事中に、内地人を入れねばならぬと云ふ法はない。實際多くの會社では朝鮮人のみで經營してゐる)。日本は朝鮮をして日本の原料供給地とし、日本製作品の消費地たらしめんがため最善の努力を拂ひつゝあつて、朝鮮内の製品に對しては、僅かの援助を興へられてゐないと云ふのである。朝鮮には實際上二つの法律が行はれてゐて、一つは日本人のためで、他の一つは朝鮮人のためである。(註。朝鮮人の爲と内地人との爲に、各別の法律が行はれてゐると云ふことはない。朝鮮人のみに適用せられ且つその經濟發展を阻害するが如き法律の存在する譯はない。嚴に一視同仁の大義に依りて、内地人も朝鮮人も法律上全く平等に取扱はれてゐる)。朝鮮人は特に政府や莫大なる土地所有者として日本人の利益を圖る東洋拓殖會社及び朝鮮銀行等の、差別的待遇に對し、苦情を云つてゐるのである。朝鮮銀行は朝鮮を利用し朝鮮人の發展を圖らない。鮮銀總裁の内地に於て演説を試みた其の中に「鮮銀は鮮滿に於ける日本人商業の發展援助の目的で設立せられたのである。日本經濟發展のためになさるゝに外ならぬ云々」と述べた。日本人は云ふ、「朝鮮は日本の主要なる一部で、其の人民

は天皇陛下の赤子である」と。之が朝鮮同化の根據である。然るに彼等は永續的不均等の經濟政策に依り、鮮人の代代繼承せし漁業權が剝奪せられつゝある如く、彼等は所有者と非所有者との、二つに分たれつゝある。斯るが故に、經濟的に日本の政策は其の主張に依るよりも、寧ろ其の行爲に依りて判斷さるべきものである。

以上述べたる所を綜合すれば、偉大なる物質的發達を來せしことは、日本統治による統治上の大なる誇であるが、しかし、朝鮮人の枚擧する三つの訴たる強制的同化政策は、賢明の處置でもなかつたし、又成功であつたとも云へぬ。寧ろ人民の反感を増したに過ぎない。日本統治は專制的で獨裁執權で、少なくとも或種の經濟的不均等主義であつて、そのために、朝鮮人の土地所有權喪失の如き、豫め防止することが出来ぬ。

日本の經濟的不均等はアメリカに於いても亦他の國に於ても同様、我儘な無慈悲な資本主義が横行してゐる所には共通である所の、ただ搾取的自己利益のみを求める邪教的實業の制度に於て見るところのものに外ならぬ。朝鮮人待遇はアメリカに於ける黒奴に對する經濟的取扱や、小兒労働や、失業者に對するものに比べて悪くはない。若し私共が朝鮮統治を印度や比島のそれに比べると經濟的には餘程優秀である。勿論此等三國は各々其の事情を異にしてゐる。日本にとつて朝鮮は、比島が米國に

とつて大切なるよりも遙に大切である。

朝鮮は過去の日本にとつて危険區域であつて、常に惱の種であつた。日本は朝鮮のために二大戦争に於て闘つたのであつて、朝鮮は日本帝國內の一部として併合されなければならぬ様に考へらるゝに至つたのである。日本が朝鮮を手離しする様なことは、輕卒に考へ得ない事である。印度や比島に於ては、未だ會て其の國民を同化吸収し、又は其の國民性破壊を試られたことはない。これ等の領土では專制的の行爲が少なく、自由であり民主主義であり、自治的である。比島人は云ふであらう、「自分等に對しては殆ど差別的待遇と云ふべきものはない。寧ろ其の法令に於て、アメリカ人や外國人に對し、大量的土地所有權防止事項を加へてゐる」と。現在まで比島に於ては、米國人に對する酷い感情がなく、又比島人統治上強制的のものが一つもない。役人の數に於ても、アメリカ人は極く少數に減少し、比島人は三千人以上に増加して來た。比島人は自己の法律を制定し、殆ど完全に自治制を有してゐる。印度に於ても亦然りで、英國は民主政體を發達せしむるべく、比較的長年月を經過して來たが、印度人は朝鮮に於けるよりも、餘程多くの自治權を與へられてゐる。

日本人の立場

善良なる日本人は、憂國の英國人が印度に於けるが如く、又アメリカ人が比島人に於けるが如く、朝鮮問題に就いて憂慮して居る。或日本人は、朝鮮の自治權を嘆願したことがある。或人は云ふ「朝鮮は日本のアイルランドである、諸君は朝鮮を我等のカナダとすることに御援助出來ないか」と。多くの朝鮮人は感ずるであらう。如何に日本が朝鮮に善政を施くとも、朝鮮人は決して満足するものではない、日本は一九〇九年(明治四十二年)統監府時代、既に朝鮮歴史の調査を始めたのであるが、現在其の歴史編纂委員の半數は朝鮮人であり、又朝鮮人は彼等自國の歴史を書くことは自由であると云つてゐる。所が朝鮮人は政府の檢閲を経るに非ざれば、其の歴史書の發行が出來ないのである。普通學校使用の歴史書籍の三三七頁中、僅か二十二頁だけが、數千年に亙る朝鮮の歴史に就いて書いてあるのみであり、且つ八十七の参照繪は日本の事柄に就てであり、朝鮮の事に關しては、僅か六つに過ぎない。

朝鮮人が參政權なしと云ふに對し、日本人は云ふ「元々朝鮮には選舉制度なるものを、もたなかつたのであつた。又朝鮮に於ては日本人も選舉權を有しないのである。彼等朝鮮人は日本内地に於ては、選舉權をもつてゐて、現に一九三〇年(昭和五年)の選舉權者の中、五割一分八厘は投票して居る」と。或日本人は又云ふ「警察官の舉動は勿論理想的ではないが、其の警察官の總數の半數以上は朝鮮

人である」と。又批判の自由に就ては「朝鮮に於ける新聞法は日本に於けると同一で、等しく日本紙及び朝鮮紙にも同一に適用されてゐるのである」と。然し新聞法は同一でも、朝鮮に於ては其の適用が嚴重であり、事實上數人の編輯人と政府攻撃者が檢擧され投獄されてゐる、之によつて見ても確である。

日本人は云ふ「小作人が増加しつゝあると云ふことは事實であるが、朝鮮統治以來今日に至るまでの期間に於て、米國に於ける小作人の増加は二割に及び、又日本内地に於ても同様の數字を示してゐるではないか。小作人の手を去つた土地の大部分は、地價より生ずる利益を目的とする朝鮮の地主の手に移つたのである」と。現に政府は一九二二年(明治四十五年)十月朝鮮總督府令を始めとし、種々なる法令に依り、自作農の奨励をなし、地主への土地兼併防止に努力して來たのである。驛屯士は殆んどすべて朝鮮農民に分與され、其の數は二十二萬五百五人に達してゐる。更に小作法を制定し、低利資金を貸與し、副業の奨励をなし、農會を組織し、一九二八年(昭和三年)には、小作法の改正をなしたのである。模範部落を指定し、種苗場・試験場等を設け、棉・香産・養蠶・其他穀類の試験をなして居る。此は或アメリカの専門家に依つて立證された様に、實に重要なものであり、これと相俟つて既に相互救濟會・農業労働組合等の努力に依り、過去二十年間に朝鮮米作は二倍の増收を來してゐる

地方もある。

産米増殖計畫は國內消費以外に多額の移出が出來、其の年額は一億弗(二億圓)に及んでゐる。十二箇年産米増殖計畫は、四千六十二萬七千ブッシェルの増額を見、米價暴落甚だしからざる時は、一年一億二千三百萬弗(二億四千六百萬圓)に達することになる。普通學校卒業生に對しては、特別に指導教育を施し、其の教師に對しては講習會を開き、耕作法の教授をなし、又回覽圖書の便が與へられてゐる。指導學校教師は、各部落に到つて其の毎土曜・日曜日に生徒を指導し、農業競技品評會を開催し、又改良品種の配布をなし、種々なる團體には農具の貸付をなしてゐる。

朝鮮には千二百三十一萬六千五百弗(二千四百六十三萬三千圓)の總資本を有する六百二十一の金融組合が在り、其の會員數は實に五十八萬八千五百六十人に達してゐる。目下自作農奨励運動が起つて、着々實行されつゝある。東山農場は其の小作人二千四百四十四人に、二十五萬四千弗(五十萬八千圓)以上を年七分の利子で、十箇年償却として貸附してゐるが、之は以前法外な高利で借財して居つた負債を支拂ふ爲の便宜供與であつて、日本の農業指導は英國が印度に於てなしたよりも遙に超越し、又アメリカ政府が其の農民に爲してゐるが如き指導方法が多々ある。之は充分日本の自慢するに足る有效な働である。

政府の示す所に依れば、不思議にも朝鮮は二千萬の人口を有し、比島は千三百萬の人口であるが、朝鮮の學齡兒童數は二百六十萬人で、比島の夫れと同一であると云ふことを發見する。就學兒童の四十七萬一千八百四十七人は公立學校に、二十四萬九千人は各種學校に通學し、其の總數は七十二萬八百四十七人で、約全學齡兒童の二割八分に相當する。

最近始められたキリスト教青年會及び宣教師團體の農村開發運動に對しては、政府も之を認め協力して居る。或人の手紙に依れば、誠意籠れる次の言葉が書いてあつた。「朝鮮人は我等の同胞であり、又兄弟である。彼等の幸福は我等の幸福であり、彼等の悲は我等の悲みであり、彼等の苦悶は我等の苦悶である、朝鮮に於ける我等の標榜する「モットー」は共存共榮である」と。總督府は過去二十餘年間に亙り、科學的研究及び調査を重ね、莫大なる豫算及び臨時費を以つて之に當り、少なからず犠牲を拂つて來たのであるが、然し未だ充分に人民の信頼を得る事が出來ない。其の理由は一方朝鮮人が過去に於ける惡政治に依る苦き經驗と、又一方彼等の覺醒が遅いからである。然し漸次其の忍耐努力の結果は、農村に於て現はれつゝある。

以上述べた通り、眞誠なる日本人の精神は、印度に於けるアーヴィン卿の精神と同様、終極に於て朝鮮の爲になさんとする努力である。意志の存する所には必ず其の道が拓かれると云ふことは、日本

の自由主義者からも、又世界の公論からも支持されるところである。

將來に於ける日本の政策

朝鮮内の情態が改善されて來たことは、各般に互つて顯著であるが、ただ残念に思はれることは、内鮮人の融和が完全に行はれてゐないことである。政府の強要的吸収政策、專制統治及び多少の經濟的差別待遇等に依り、教育ある鮮人及び最も善良なる鮮人をして、殆ど其九分九厘迄が日本に對する沈黙的敵對の態度に出づる様になつて居る。日本人は反駁して云ふ、「朝鮮人は信頼することが出來ないから、嚴重にやらねばならないのだ」と。

朝鮮歴史を研究すれば、漸時朝鮮人に興へられつゝある所の(初めに地方、道、後に中央の)自治の政策に對して彼等は好感をもつて居ることである。朝鮮人に今少し高官の職を興へ、今少しく責任ある地位を興へ、日本人と肩を並べさしてやつては如何であらう。朝鮮に於て必要なのは法律的、政治的自治よりも、寧ろ文化の自由である。同化と云ふ言葉は朝鮮人にとつては苦い毒の様なもので、彼等を同化すべく強ゆる爲に努力するよりも、鮮人は鮮人たらしめたら如何だらう。彼等に其の歴史を書かしめ、其の言語を保存せしめ、印度や比島に於けるが如く、其の繼承せし文化を保護させなければ

ばならぬ。又彼等には不法的差別をすることなくして、經濟的自由を與へねばならぬ。

日本が鮮人の信頼を得る唯一のものは、其の公正なる行爲と和協的精神とに依るものであつて、日本の最賢明なる政策は、多く語らず著々地方自治を始めとし、中央の自治實行に邁進し、法律文化及び經濟自治と相俟つて行くべきものである。朝鮮人が獨立の希望をもつが故に疑ひをかけられ、壓迫を加へらるゝ様なことがあつてはならぬ。自尊心ある朝鮮人が日本人と等しく、それを希望すると云ふことは當然のことであらう。他方に於て朝鮮が眞の自治に向つて進歩を來しつゝあるとすれば、朝鮮人は執念深く敵對態度を保つてはならない。小事にも注意すべきである。而して世界の最大強國の一である日本に對して、團體的行動を取る如き希望は棄てなければならぬ。自治制に向つての日本の進歩に對しては、五分五分に折合はなくてはならぬ。現在に於ては漸次一步々々と進んで行かなければならぬ。日本及び朝鮮の爲に必ず新時代が到來する。

比島は多分獨立するのであらう。印度は英帝國內に於てか或は外に於てか自決を獲得するであらう。教育と啓發された公論は、朝鮮人を新らしき理想に導くであらう。又日本人は鮮人をして帝國主義擴張内に於ける單なる農僕、又は經濟的質草としてをく考へてあるとすれば、彼等朝鮮人に教育を授くべきではない。未だそれ以上必要なことは、新らしき自由の日本が建設されつゝあることであ

る。普選、勞働團體の發達、プロレタリア團體の發達の可能性、而して公正なる經濟的理想に向つての日本人學生教育（學生は折々學究的理論の極端に走つて、政府より危險思想家として取扱はれて居ることもあるが）、以上は朝鮮の將來に向つての輝ける踐約である。日本の自由主義者の或る者は、既に朝鮮の爲めに考慮しつつあるが、必ずや朝鮮に代つて、言論を戦はしてくれるであらう。

朝鮮の過去

朝鮮と日本との現時の事情を知らんと欲すれば、先づ彼等の過去の歴史を通じて之を知るに如くはない。朝鮮半島は曾て支那・日本及びロシアの三大強國を分ち、又結びつけた國である。それ故に何時も其の禍中に巻き込まれた。數世紀の間、朝鮮は隱遁國であつた。支那を除くの外世界各國とは如何なる折衝もたなつた。只支那のみが其の優秀なる文化を分與して名目上其の屬國であつた。支那の文學及び佛教は朝鮮を経て日本に輸入されたのである。日本は一千八百五十四年ペルリ提督來訪以來、門戶開放主義を採り、隱遁國たる朝鮮に對しても門戶開放を迫つた。日本は國內の必要なる改革を計畫し、其の獨立を保持せんがために、諸國に當つたのであるが、それは先づ支那次にロシアであつた。

前に記述した様に、朝鮮の宮廷は虚弱腐敗し、官位官職を公賣して収入を得てゐたのである。役人は殆ど俸給の支拂を受けること無く、爲に官職を買ひ、其の競賣者に對峙し得るために、人民の膏血を絞り蓄財するの必要があつた。皇帝は貴族を絞り上げ、貴族は人民より搾取した。觀察使は其の管轄道より絞り取り、市尹は其の市より、其の他官吏は國民より絞り取つたのである。富豪は牢獄に投ぜられ、官を買収するまでは釋放されることが出来なかつた。勤儉貯蓄の美風は廢たれ、今日まで其の悪影響を及ぼすところが少なくない。皇帝皇后に屬する黨派は分れ分れて、日本・支那・ロシアの間にあつて、盛んに陰謀を企てた。

千八百七十三年より千八百九十五年迄に於ける日本の政策は、朝鮮の改革進歩獨立のためであり、凡て彼自身に對する威嚇に對してであつた。即ち支那、最後にロシアであつて、日本は朝鮮の支那に對する臣服、保守思想及び腐敗を遂に一掃し、其の獨立改革を敢行せしめたのである。

千八百九十四年より九十五年に日清戦争が開かれ、世界の豫期に反し戦は日本の大勝に歸した。支那は其の結果朝鮮の獨立を認め、遼東半島を日本に割讓し、賠償金を拂つた。然るにロシア・フランス及びドイツの三國は之に抗議し、遼東半島の還付を迫り、彼等自身が其の領土を獲得租借した。ロシアが滿洲及び遼東半島に進出し、更に日本の門戸に衝る朝鮮に逆伸び出て來たために、日本は千九

百四年止むなくロシアとの戦端を開く様になつたのである。之は全く自衛的に出たものであつて、僅か日清戦争後十年に過ぎなかつた時である。日本が支那に大勝して僅か一年足らざる間に、ロシアは朝鮮の改革及び獨立を阻害した。日本は歐洲に於ける最大強國ロシアに衝り、再び朝鮮のために戦を交ゆるに至つた。

アメリカ人として記憶しおかなければならぬことは、日本の朝鮮及び滿洲に於ける關係は、米國が遠距離にある比島に對するそれと同一のものでないと云ふことである。寧ろ千八百四十五年、メキシコから戦争によつて獲得した加州の如きものである。抽象的權限から云へば、加州はメキシコに還付さるべきものであるが、然し米國人はそんなことを考慮する餘地を有たないと同様に、日本も朝鮮のために二大戦役の犠牲を拂つた以上には、朝鮮の獨立を叫ぶことは困難であらう。

千九百五年(明治三十八年)に朝鮮は日本の保護國となつた。日本の大政治家伊藤公爵は千九百六年(明治三十九年)統監に任せられ、諸般の改革案を携へて着任された。然し是等の實行は諸種の困難に遭遇し、朝鮮人間には好評を博し得なかつた。遂に千九百十年(明治四十三年)正式に併合が行はれた。之の併合は日本人にとっては當然の出來事と思はれたけれども、朝鮮に於ける改革派にとつては、國家の大抱負に對する打撃であつた。大體に於て日本の政策は物質的に顯著に能率が上つたが、

只同情と理解と協調の點に於て缺けてゐる。

朝鮮人の日本人に對する三つの排目的的精神がある。第一は千九百十二年(大正元年)暗殺事件に於ける失策である。第二に千九百十九年(大正八年)朝鮮獨立宣言である。第三に千九百二十九年(昭和四・五年)學生騒擾事件である。

日本軍國主義者は、數世紀間孤獨の生活を續けて、陸軍政治には非常に忠實であつて、異國民に對する心理的理解を缺き、朝鮮問題の如きデリケートなものに對して、賢明なる處置を採るには不適當であつた。先づ彼等は非常に嚴格であり、折々荒々しい官僚的態度に出でて失敗した。之は明に暗殺事件に於て證明されてゐる。二人の泥棒が處罰を逃れるために、アメリカ宣教師及び朝鮮人キリスト教信者が寺内總督暗殺の陰謀を有することを傳へた爲に、百二十三名(主としてキリスト教會牧師及び平信徒)が檢舉され、裁判の結果有罪となつた。六人は十年、十八人は七年、三十一人は六年、四十一人は五年の刑に處せられた。控訴の結果六人は尙五年又は六年の刑に處せられた。

第二は千九百十九年(大正八年)三月一日に朝鮮の指導者が、全鮮の各街頭に立ち彼等の受けつつある虐待と艱苦を訴へ、獨立宣言文を読み上げ、萬歳を唱へたことである。然して其の指導者は平和的に自首し出でたのであるが、其の他の暴徒は官憲に反抗し捕縛せられ、數百人が投獄されたのであ

た。日本人は此の豫期せざる國家的大騒擾に狼狽したのである。然かるに日本に於ける新聞は、軍閥政治に依り統治される朝鮮に、惹起された實狀記事の掲載を禁止したのである。其の以前即ち一月二十一日に、皇后暗殺後數年間にして朝鮮皇帝は崩御された。千八百九十五年(明治二十八年)に王妃は宮廷に亂入した暴漢の爲に殺害されたのである。皇帝崩御の喪は當時國家的精神の再勃興せし時で、眞實彼等の獨立を失つたと云ふ悲哀な空氣に満ち、全民悉く悲哀混亂の狀態に在つたのである。皇帝の國葬及び獨立宣言の當時には、日本は軍隊を出動せしめて、暴動を鎮壓し、數百名が投獄せられた。長谷川大將は軍人の常として、日本新聞記者に此の騒擾は「ボルセビキ」の煽動に依るものであり、過去十年間全世界に亙り、彼等は政治・社會・産業の不正を鳴らしてゐるが、之も其の一例に洩れないのである」と云はれた。此の騒擾事件の結果、陸軍々人たりし總督は退職し、恐らく此の最大難局に當るべき日本に於ける最善の人、海軍大將齋藤男爵の任命を見るに至つた。彼の純良なる精神、慈悲深き性質、協調的政治は數多の改善を齎し、充分の讚辭を呈するに見るのであつた。併し未だ日鮮人間に於ては、根本的に又心理的の誤解が存在し、政府の施政が如何なる物質的進歩を來たしてゐるにもせよ、又朝鮮人官吏が内鮮協調の態度に出てゐるにもせよ、彼等の有する之等の誤解が、有爲なる人民や眞の愛國者をして、日本と相結ぶ事を爲さしめずして、隔離して了ふのである。

次は第三の學生騷擾事件に於て善く證明されてゐる。全鮮の學生が殆ど擧つて之に加はり、特に官公立學校の生徒が之に和し、政府に對する根強い反感あることを如實に示したのである。之は僅かの事件より惹起されたもので、一日本人學生が一朝鮮人女學生に對し、侮辱を與へたと云ふに端を發したのであるが、千九百二十九年(昭和四年)十月三十一日以來日鮮人學生間に大なる争鬭が惹起された。雙方の學生とも負傷し、警察官の出動を見るに至つた。朝鮮人は裁判所の判決が朝鮮人に重く、内地人に輕かつたと感じた。之は一般の場合に於ける不公平なる差別待遇であると感じたのである。學生騷擾に次いで一般的學生のストライキが行はれ、學校々庭から飛び出し萬歳を叫んだ。而して更に千九百三十年(昭和五年)一月に至つて擴大して全鮮の中等學校に及び、警察官との衝突あり、數百名の鮮人學生は投獄され、退學處分に附せられ、學校は數週間に亘つて休校した。日本官憲及び警察官は、例に依り彼等は共產主義的秘密結社に依るものだと云つて居る。

斯るものを凡て露西亞の陰謀と云ふは餘である。朝鮮に共產主義影響のあることは誰一人疑ふものはないが、其の共產主義なるものが、朝鮮人の有する如何なるものを訴へて居るのであらうか、取りも直さず前述の三つの訴あるが故であつて、其の老若たるを問はず、日本統治に對する一般的怨恨に對して、刺戟を與ふるものである。日本人が此の點を十分認識し、朝鮮の指導者からの信頼をかり得、彼等と協調的態度に於て、誠心誠意之等の問題に立脚するに非ざれば、何時迄も朝鮮人の反感を除

去することは出来ない。兩民族の幸福を希望する者は、すべて彼等雙方のより善き理解を希望するものである。

朝鮮には一大勢力があつて、朝鮮人を形造りつゝあり、外部的に日本政府の賢實なる働があり、又一方にはキリスト教の内部的精神の運動がある。此の膨脹力ある精神運動は、最も有識的進歩的社會に對し、其の教會、學校、病院、其の他の團體、家庭等を通じて働いてゐる。三十餘年前腐敗せる惡政の下にあつた朝鮮は、逆送しつゝある儒教文明の下に、しかも國家は眠り人民は懶惰に陥り婦人は隠遁されて了つた。佛教は廢頽し、政治陰謀を事とし、不道徳裡に終始して、遂に首都京城より放逐されて了つた。一般民衆は精靈説、黃教、魔除の神崇拜、魔法に因りて弄ばれ、人間の頭は材に刺されて路傍に曝され、罪人に對するみせしめにされ、牢獄には改革者と、愛國者を以つて滿された。此の最も宗教の必要なる國に、千七百八十四年羅馬舊教が侵入して來たが、侵入と同時に魔の手は延びて、宣教師や信者が死刑に處せらるゝ等迫害の限りを受けた。

新宗教は各宗派信徒數三十六萬人、即ち全人口の二パーセントになる迄急促の進歩を爲したが、各基督教の勢力は其の數に比して偉大なるものであり、初代傳道は主として、神學的な精神的なもので、其の目的たるや健全な獨立的の社會建設にあつた。然るに今日に於ける使命は經濟及び社會の要求を充たすにある。政府は賢明の策に出でて、基督教青年會及び宣教師團等、農村經濟の開發の爲に設置

され、農村講習會、販賣組合、土壤の改良、品種の改善、農具改良、米産畑作、商業等の改善努力に協力して居る。斯る政策は物質的に有利に導くのみならず、政治思想にのみかられて、實質的生活に親まないうものも方向轉換することが出来、更に自己陶冶の新らしき希望を與へることが出来る。

朝鮮人はデンマークの更生を研究し、教會により啓發された其の國民高等學校及び共同販賣に學ばんとし、又印度の基督教青年會によつてなされつゝある共同金融機關を研究してゐる。模範部落を造り農村の範として研究を怠らないが、斯る計畫と試みは、將來の教會と政府と人民との協力を意味するものであつて、凡て朝鮮人の福祉の爲である。

近時、國家思想勃興し、帝國主義廢頽の傾向ある際、一國が他國民を統御せんとするのは至難の事業で、有り難く思はれない引き合はぬ仕事である。例へ朝鮮が他國より統治され不評判の統治であるにしても、朝鮮人は過去に於て未だ見ることの出来なかつた、立派な近代的の政府を有して居るのである。貧乏甚だしくして或るものは、此の變遷極まりなき時代に於て滅ぶものもあらうが、新朝鮮は新愛國心と宗教、教育、法律及び秩序の下に建設されつゝあるのである。

日本の朝鮮に於ける將來の成功の原因たるべきものは、彼の勢力や商業權の擴張進歩等によるものでなく、只管朝鮮人の經濟的繁榮に對する同情理解と、政治的自治と、鮮人の精神的品性によるものである。之等の事を考察する時に、朝鮮の將來に大なる期待をもつことが出来る。(おわり)

米國視察團の眼に映ぜる朝鮮

カーネギー財團主催に係る米國記者團一行十二名は、昭和四年六月九日より十三日まで朝鮮の各地を視察し、京城にては本府、科學館、朝鮮神宮、朝鮮人家庭、林業試驗所、壽松洞普通學校、經學院、梨花女子普通及專門學校等を視察、東九陵に詣り、又昌德宮を拜觀したが、一日を仁川におくり其所の名所をも視察したのである。一行中のアトランタコンスタチエーション紙のフランシス・クラーク氏、アムストンのスター紙のライオン氏、ロサンゼルス・タイムス紙のホーク氏が、朝鮮の印象に就て筆を執つてゐるが、彼等の觀察もほんのフランスとしか云へない。記事中いろいろの誤もあるが、數字に關する誤は注記して之を正し、事實に關する誤は傍側に△點を附して誤解を避けることとした。

苦情と利益

新聞記者一行が朝鮮の首都京城に到着すると、朝鮮民族運動者は先づ遠來の客を迎へて、彼等が政府に對して有てる苦情を訴へんが爲め、其の諺文新聞特別號を出して日本統治に對する不満苦情を書き置いたものを一行に配布した。之に對する一行の反響は果してどうであつたか、吾等は朝鮮人に對して充分同情を持ち氣の毒には思ふて居るが、朝鮮に於ける日本の統治は、畢竟鮮人の自ら統治する

に比し、遂に勝つて益をなして居ると考ふるより外はなかつた。

朝鮮人は自國を統治しつゝある政府の施政に對しては一言を容るゝ自由を有たないことは事實であらう、又學校に於ける常用語は日本語であり、王族は日本婦人と結婚し、朝鮮が日本化されつゝある事實を認めるが、然し又一方に於て、數世紀の間隣強諸國より蹂躪され、其の結果貧乏の極に達して居た朝鮮が、今や恒久的豊澤の裡に太平を謳歌し、無限の進歩と繁榮とに輝きつゝある事實をも認むるのである。

教育ある朝鮮人は愛嬌好く上品であるが、彼等は祖國を愛し其の傳統的精神を尊び、自治權を失つた事を非常に痛嘆して居る。然し又一面に於て、日本の統治がその宜しきを得、時を追ふて貧民の數を少くしつゝあることは、豫想するに難くない、即ち彼等は一方に失つたけれども、それによつて得たものは遙に大なるものがあらうと、クラーク氏は述べてゐるが、又ホーグ氏は次の如く書いて居る。

日本統治に不満を抱いてゐるものは、朝鮮少壯者であるが彼等は政府の建てた學校で教育を受けた者である、朝鮮に於ける人口の大部分を占むる農民と労働者は、政治に對しては無關心であり、寧ろ現時の朝鮮は昔の韓國政府時代に比して遙かに大なる進歩であると考えてゐる。たゞ學校にある青少年が日本を敵視してゐる、彼等は學校でデモクラシーの眞意を學んで居て、東京で發令になる嚴正な

法の命令によらないと仲々服従しない。然し汽車の窓から見える千萬の農民達は日韓併合に對しては何の反感をも有つて居ない、寧ろ之を承認してゐる。而して又過去十九箇年間、其の生命財産の安全を保證せられて居るのであるから、若し一朝其凡てが引上げとでもなつたら、それこそ大恐慌を來すのである。

政體などと云ふ様な事は、彼等の原始的な概念では考へ得らるゝ處でない。けれども日露戦争後二十五年間と云ふものは、彼等の所有する田畑が、兵馬の爲めに、畔道一隅たりとも損はれた事はない、勿論他國の侵略を蒙つた事もない、又一度たりとも掠奪に遭つた事もない、田園生活の平和は斯くして亂された事はないのである。

朝鮮人は對岸の支那人が革命戦争の爲に、戦々兢々として國境を越え、彼等の領内の山谷に避難して來るのを目撃して居る、彼等は二十代を経て、漸く今日始めて他國の侵略を免かれて居るのである、彼等の消費する食糧は祖先の時よりも少くはないが、尙多量の殘餘があつて、四代前には夢にも見なかつに價で賣捌く事が出来、多額の收入を齎してゐる。それ故、いくら外部より政府は朝鮮人の味方でないと言傳されても、そんな事に傾聴する事は出来ない、「安全」と云ふ事は彼等の子弟が外人の書いた書物で學ぶデモクラシーの眞意よりも、遙かに勝つて價値あるものである。然し此の状態が何

年間續くものやら豫想は出来ない。政府は朝鮮に四千餘の學校を設立し（昭和四年五月末日現在の幼稚園及書堂を除く學校數は、官公立二一六二校、私立六四〇校、計二、八〇二校である）初等教育の普及に努めて居る。進歩は津々浦々に及んで居る。之がため一本の釘が他の釘を打ち出す様に、新思想が舊思想を追出して居る。學校を出たばかりの青年は、水田で草とりをするよりも、京城の都會でセメントの人道を濶歩するのを好むから、其親達は田園に鋤をとりをる間も、常に之等の事が腦裡を往復して、悩みの種となつて居る。何故今の子弟等は、祖先には一向氣にされなかつた事柄を、斯くまで嫌ふのであらうか。彼等農夫が政府に對する唯一の不満は、子弟の就學を強要せられる事である。それは時間の浪費であり、又無益の事柄の勉強であつて、其の時間を用ゆれば水田で立派な収益があるからである。

汽車の窓から見た朝鮮人の生活状態

汽車の窓から見た朝鮮は、我等一行には誠に奇妙に見へるが、又實に繪の様に美しい。

朝鮮人の服装は男女共に眞白であつて、殆ど他色を用ひて居ない。可笑しな馬毛で出來た帽子は特に目を惹く、此帽子は四十年前に朝鮮全權一行が、我が國の首府ワシントン市を訪れ、我政府に朝鮮

獨立の承認を求めて失敗に終つた時、彼地の人々を仰天せしめた帽子である。此帽子を冠る人はチギ、即ち背に運搬機を擔つて居る人々の有たない威嚴を保持して居る。帽子は鬚を保護するもので、其の鬚は社會に於ける地位の表章である、尙鬚を保護する帽子を冠る人は、實に上位の人である。尙帽子の上に今一つの帽子をつけるものもある。

婦人も男子と異つた帽子を冠る。又彼等は男子と變りない程重いものを運ぶが、其方法は頭上で運ぶ。我等の國でやるのと好く似て居る。此の爲か婦人の身體は眞直である。

我等一行は朝鮮の農民と其指導者のなしてをる農作法の原始的なものには驚かざるを得なかつたというイオン氏は書いて居る。即ち直ぐ汽車の窓下の處で二人の男が麥の篩ひ分をやつて居つたが、一人は篩を持ち、他の一人はシヨブルで少量づつの麥をほり込んで、一人が篩ひを振つてをる間、他の一人は之を見て居る。我等の汽車がカーブを廻るまで之が見へて居た。實に遅々たる動作である。少し行くと田の中で井戸か溜池かで、水田に水を汲み上げて居たが、二人はバケツの様な水槽の兩端に結ばれた綱を一本づつ持ち、そして同時に溜池に下しては、又引きあげて水を送つてゐた。尤も之は熟練を要する仕事ではあるが、骨の折れる仕事である。ポンプか水車でやれば、勞力も省けてより善い仕事が出来ると思はれる。

日本は朝鮮で何をなしたか

ライオン氏は次のやうに書いて居る。私は昭和二年度の朝鮮總督府の施政年報を讀んだが、昭和元年には千九百十萬三千九百の人口中、千五百五十一萬三千四百十八人即ち八十一パーセントは農業に従事して居る。(上記の數は農業・林業・牧畜業を合せたもので、昭和元年の純農業者數は一四、六九〇、七三五人である。)政府は極力彼等に仕事を與へる方針をとつて居て、京城附近の農學校で出来るだけ近代式の農業法を教へて、骨の折れない様に努めて居る。然し新農法に直ぐ改良される事は誠に時を要する、又隨分迷信も手傳つて居て、新農作法に變るまでには、一代位經ないと六箇數から

朝鮮には洪水による土壤浸蝕があつて、土壤は悪くなつた、上流から押し流されて來た多量の汚土が、肥沃な田畑を蔽ふて居るので、長年月に亘つて充分の手入れを爲し、肥料を施さないでは舊に復さないであらう。

然し幸に此の浸蝕による危険は防がれた、政府の賢明な然かも進歩的施設の結果、山は既に水を保留し得る様になつて來た。併合以來植ゑられた木の數は二百七十萬本(二十七億の誤である)であつ

て、政府は毎年八千町歩の割合で植林して居る。その他民間でも八萬町歩を、政府の補助に依つて植林して居る。既に植林された土地丈でも八萬八千町歩(八十八萬町歩の誤である)ある。政府は毎年三千町歩の砂防工事を施し、一年に九萬一千町歩の割合で、浸蝕に備へて居る。

之によつて水害は目に見へる程減少した。河川の底は毎年礫や砂利やで埋められて來たが、漸時河底も深くなつて來た。又降雨も多くなつたと云はれて居る。然し之は果して事實か、自分には疑はしい、自分は未だ氣象にまで變化を來たしたとは信し得ない。然し今の政府の方針が繼續されたら、今から五十年も經つた後には、今植林されつゝある樹木が森林を成し、乾ききつて居る土壤も、日本内地に於ける土壤のやうに、水も潤つて來ると思ふ。

又、クラーク氏は言つて居る。朝鮮人は身體も強壯で、立派な體格をして居る。頭腦も明晰であるが、たび代々不安にかられて、文明からは遠ざかつて居た。國內を眺めても鐵道はないし、自動車や、東洋で最も必要な灌溉の便もなかつた、道路は禿山を通じ、畔道大のものに過ぎなかつた、市街は穢いし、建物は不充分的な古こけた物許りであつた。

今見へる此の變化は何であらう。首都京城はさながら西洋の都會を見る觀がある。道路は廣いブルバードで、立派な學校の校舍は建てられ、總督府廳舎は、米國等で建たらしくとも五百萬弗(約一千

萬圓)は要する立派なものである。釜山から京城に行く途中、アールマン車の内から目に映ずるものは豊作の田畑で、灌漑の爲のイリゲーション・デッチが山谷を颯々として流れて、豊富に注いで居るのが見える。良き道路は風景を飾つて居る。近い中には残りの禿山も緑と化するであらう。

日本は併合以來十九年間にして、數百年間停頓状態にあつた朝鮮と、近代文明國との間に渡橋を架けてやつた。之等の變化に照してみても、當局者の名は何と呼ばれやうが、朝鮮民衆の爲には、或は多少忍耐の足りない處があるかもしれぬ。又朝鮮人の苦しみもあるかもしれぬが、日本は莫大な利益をもたらし居る事は明らかである。—(おわり)—

朝鮮部落の宗教

ロバート・ムーズ

本稿は、米國基督教團員たりし、ロバート・ムーズ氏が、十數年間朝鮮に於て布教に従事したる折の感想の一部の摘譯である。米國人が基督教布教に熱心なことは衆知の事實であるが、彼等が朝鮮部落内に入り如何なる活動を爲し、又如何なる研究をすゝめて居たかを窺知するに足るべき好資料であるから、茲に譯出したのである。

(一)

世界何れの國に於ても、宗教の存在しない國は無く、又信仰心の無い國民も無いと言ふてよい。然るに朝鮮には一定の宗教として認む可きものが殆んど無い。儒教と佛教の國に介在して居る朝鮮は、當然何れかの影響を受けて居らねばならぬのに、夫等に類似した宗教は殆んど認められないのである。